

地元企業の経営革新を推進するプログラム  
北陸経営イノベーション研究会  
伊那食品工業株式会社ベンチマークツアー開催

金沢工業大学の産学連携プログラムである北陸経営イノベーション研究会の参加企業と山形県庄内地区の経営研究会の参加企業と合同で、昨年に引き続き長野県伊那市の伊那食品工業株式会社へ総勢 19 名でベンチマークツアー（企業視察）を 9 月 2 日（月）3 日（火）に開催した。

伊那食品工業株は寒天の製造販売を行っている会社で国内 8 割のシェアを獲得、創業以来 42 年連続で緩やかに売上高を伸ばしている。塚越会長の「年輪経営」という経営哲学が高く評価されており、多くの書籍、ビジネスメディアなどでも紹介されている企業である。

9 月 2 日（月）14:00 に、参加者は長野県伊那市に宿舍入りし、虎ノ門大学院ビジネスアーキテクト専攻、明道弘政教授を講師にベンチマーク事前学習として、レクチャー及び伊那食品工業株の DVD を視聴した。伊那食品工業株の塚越会長は、「社員をしあわせにしたい」という想いを実現するために経営における全ての意思決定を行い、斜陽産業の寒天業界に新たな市場（医療分野など）と高度な製造技術、そしてブランド化による独自の販路を開拓されたことという内容だった。視聴後はグループ 6 班に分かれて伊那食品工業株の特徴・成功要因をテーマとしたグループワークショップ及び発表が行われた。参加企業の方の活発な意見が飛び交う中、翌日の現地視察での確認事項もあわせて整理された。

9 月 3 日（火）の現地視察では、塚越会長より、社是は「いい会社をつくりましょう。たくましく、そして、やさしく」。人々に「いい会社」と言ってもらえる企業。社員、取引先、顧客、地域など関与するすべての人に愛される企業。利益追求型や高度成長化よりも会社の永続に価値を置いた経営、永続こそすべての人々をハッピーにし、地域や関連業界、ひいては国家のためになるのではないか。業界によって異なることもあるが、共通していることは、社員や仕入れ先を大切にし、常によい物をつくり、売り過ぎず作り過ぎない。ブランド力を高め、さらに街づくりやメセナ活動やボランティア活動、文化活動もバランスよく行うことの重要性を熱く語って頂いた。

引き続き、3 万坪の敷地のレストランやホール、健康パビリオンなどがある「かんでんばばガーデン」などの見学を行った。ここは社員の手作りガーデンであり、憩いの場として一般に開放し、地域住民を含め多くの訪問者で賑わっている。

今回のベンチマークツアーを通じて参加者からは、会社が社員を家族と考え、家族の幸せのために仕事をするという考え方が、全社員に行き渡っていることが、自発的で生産性のある行動につながっていることなど、多くの感動・感嘆の声がたくさん伺えた。

今後も経営革新に参画する企業の方々との密な意見交換を図りながら、地域企業の永続発展に寄与する本学独自の産学連携プログラムとしての更なる定着を図っていきたい。

（連携推進室 川本 拓見）



事前学習の様子



塚越会長講演会の様子



かんてんぱぱガーデン視察の様子